

手品を通して広めよう！

人の輪、そして地域の輪

代表者 末澤 陽子 (教育学部学校教育教員養成課程 2 年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、手品を一つのルーツとして、地域の方々と大学生との交流を深めていくことを目的としています。地域の各種イベントに参加し、バルーンアートやジャグリングを教えることで、その楽しさを地域の方々と分かち合います。また、定期的に同じ老人ホームや学童保育に訪問してマジックショーをしており、その施設と大学生の結びつきを深めていきました。

2. 実施期間 (実施日)

平成 20 年 4 月 1 日 から 平成 21 年 3 月 31 日まで

木太北部小学校学童保育 (2 カ月に 1 度)、居宅介護支援事務所悠々香南 (ほぼ毎月)、高松養護学校 (夏休み、冬休み) など定期的に訪問しています。各種地域のイベントは以下の日程で参加しました。

日程	参加イベント・訪問場所
平成 20 年 9 月 27 日	イオン高松 県内大学・短大学園祭まつり
10 月 13 日	三木町スポーツフェスティバル
10 月 18, 19 日	サンポート高松 かえっこバザール
11 月 16 日	タックスラリー 2008
11 月 29 日	子どもの生活リズム全国フォーラム in かがわ
11 月 30 日	香川県ボランティア NPO 交流会

3. 成果の内容及びその分析・評価等

今年度の活動は、地域の方々参加型の取り組みが少なかったという昨年度の反省点を踏まえ、参加型の活動を中心に行いました。したがって、このプロジェクト事業は、自分たちがサークル活動で日々味わっているマジックの楽しさを地域の方々と分かち合うことをテーマに設定し

ました。地域主催のイベントにボランティアとして参加し、バルーンアートやジャグリング、身近な道具を使った簡単なマジックを地域の方々に教えます。地域の方々は、手品はテレビなどでよく目にする機会はあるけれども、自分の身近で見たり、自らバルーンを使って何かを作ったりという機会は少ないのではないのでしょうか。だから、子どもたちなどは、バルーンアートをとても珍しがっており、興味津々でした。そんな子どもたちにバルーンアートを教えてあげようとする、最初は「割れそう」と怖がってしまう子もいました。でも大丈夫、技術を持ったやさしいお兄さん、お姉さんが丁寧にレクチャーします。お兄さん、お姉さんに教えてもらって自分で動物や剣が作れると、とてもうれしそうにしていました。また、自分たちが普段練習しているジャグリングも、子どもたちにとってはとても珍しいものようで、ジャグリング体験コーナーにとても興味を持ってくれました。子どもたちは、私たち大学生よりも飲み込みが早く、すぐに基本的な技ができるようになっていました。



また、このプロジェクト事業により、地域の方々に大学生を身近に感じてもらえるようになったと考えられます。幼稚園児や小学生にとって、かなり歳の離れた兄姉でもないかぎり、大学生は遠い存在だと思います。そんな大学生がバルーンアートやジャグリングを自分たちに教えてくれたことで、遠い存在だった大学生を少しでも身近に感じてもらえるようになったのではないのでしょうか。現に、

いつも訪問している学童保育の子どもたちは、私たちをマジックのお兄さん、お姉さんと慕ってくれており、大学生を身近な存在に感じてくれています。保護者の方々も、大学生の印象を「遊んでばかりいる大学生」という印象から、「子どもたちのためにボランティア活動をしているさわやかな若者たち」という印象を与えることができたと思います。大学生の活動のよい部分を見てもらうことができたのではないのでしょうか。



4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、地域の方々に、手品の楽しさを広めることができたと思います。例えば、バルーンを教えた子の中には、「この前のバルーン教室で教えてもらったやつ、家でもやってみたよ。今度は違うの教えて。」と、私たちのバルーン教室をき

っかけに、技術を身に着け、さらにその技術を向上させようと前向きに取り組んでくれている子もいました。ジャグリング教室に参加してくれた子の中でも、「またこれ機会があったらやってみたい。」と言ってくれる子もあり、未来のジャグラーの誕生も予感させてくれました。そんな子どもたちの言葉を聞くと、自分たちがサークル活動で楽しんでいる手品やジャグリングの楽しさを、地域の方々にも味わってもらえたのだと実感できて、とてもうれしくなりました。



また、香川大学祭に対しても、少なからずこのプロジェクト事業の影響はあったと思います。いつもマジックショーに訪問する施設の方が、私たちのショーを見に大学祭に足を運んでくれました。大学祭に来てくれた親子連れの方々には、私たちのマジックコーナーやジャグリングショーは大変好評でした。地域の方々と共に楽しめる大学祭にするといった点で、大学祭にも貢献できたと思います。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

イベントに参加するということは、サークルのメンバーみんなで協力しなければなりません。各種イベントを通して、メンバー通しの絆も深まりました。春にはまだぎこちなかった私たちですが、イベントを通してだんだんと仲良くなり、今ではお互いにかけてあげのない存在になりました。私たちは信頼しあえる仲間をつくることができ、大学生活の大きな励みになっています。

また、各種イベントに参加し、マジックショーで各施設を訪問するにあたり、私たちはさまざまなマナーを学びました。小さい子どもにバルーンアートを教える際には、しゃがんで子どもと同じ目線ですするというマナー、地域の年上の方々と話すときの会話のマナーなどです。これらのマナーは大学生活の中だけではなかなか学べないものです。また、手品を人に見せる際、



見てもらう人にマジックを楽しんでもらうためには、ユーモア溢れる話術が必要です。さまざまな施設を訪問し、マジックショーを行う中で、私たちは人前で話すことに慣れ、ユーモアあふれるパフォーマンスができるようになりました。それは、大学の授業や就職活動でも生かせる、プレゼンテーション能力の向上にもつながりました。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

今後の抱負としては、もっと活動の幅を広げていきたいと思います。活動の中心は高松がほとんどだったので、坂出や宇多津など他の地域でのイベントにも参加してみたいです。また、今年度の活動では、イベントに来ていただいた方にバルーンアートやジャグリングを教えるといった形でした。しかし、今後は私たち自らが各学校や施設に訪問してバルーンアートやジャグリングを教えるという形をとり、より多くの方々にバルーンアートやジャグリングの楽しさを味わっていただけたらいいなと思っています。

最後に、この活動を通して、私たちは多くの地域の方々と触れ合うことができました。さまざまな年齢の方々と交流することで、自分たちの世界観が広がりました。地域はそこに住んでいる人々みんなの力でつくられています。活動を通して、それを実感することができ、自分たちも、この地域の一員なのだという自覚を持つことができました。本当に良い体験をさせていただいたと思っています。これからも、マジックのみならず、他にもさまざまな活動を通して地域の方々と交流を深めていき、人の輪、そして地域の輪を広げていきたいです。

7. 実施メンバー

代表者	末澤 陽子	(教育学部 2年)			
構成員	横谷 昌浩	(教育学部 2年)	吉川 雄基	(教育学部 2年)	
	三宅 悠介	(教育学部 2年)	西森 優真	(教育学部 2年)	
	安政 真央	(経済学部 2年)	大森 敦美	(教育学部 1年)	
	井上 みなみ	(教育学部 1年)	塩田 治奈	(教育学部 1年)	
	上原 由雅	(経済学部 1年)	梶原 愛香	(経済学部 1年)	
	西田 育恵	(経済学部 1年)	栗村 皓平	(法学部 1年)	
	清水 真央	(法学部 1年)	佐藤 久仁哉	(工学部 1年)	
	古川 数馬	(工学部 1年)	高木 正和	(工学部 1年)	
	守分 仁成	(工学部 1年)	池田 健人	(工学部 1年)	
	船津 佑介	(工学部 1年)	千崎 雄佑	(農学部 1年)	
	近成 麻子	(教育学部 3年)	羽原 壮希	(教育学部 3年)	
	今井 雄二	(工学部 3年)	宮西 浩二	(工学部 3年)	
	笹尾 知史	(教育学部 4年)	平尾 吉史	(教育学部 4年)	